

令和4年度 第2回 地域包括ケア推進会議

令和5年3月20日(月) 18:30～

次 第

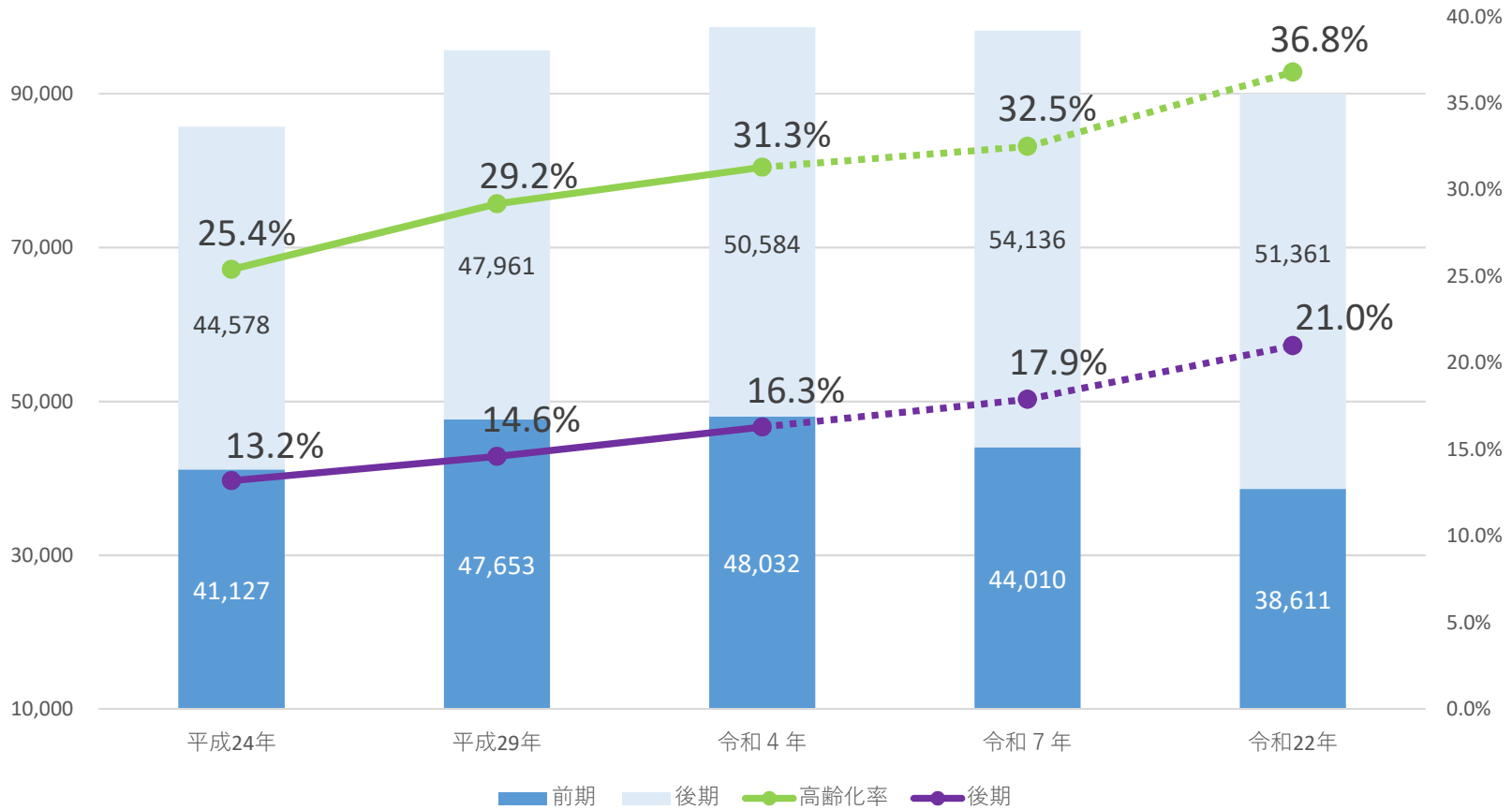
- 1 開 会
- 2 委員紹介・事務局紹介
- 3 会長挨拶
- 4 議 事
 - (1) 高齢者の現状と推移
 - (2) 地域包括ケアシステム推進の現状
- 5 閉 会



高齢者の現状と推移

いわき市の高齢者人口の推移

高齢者人口（高齢化）の推移



第9次いわき市高齢者保健福祉計画を基に作成

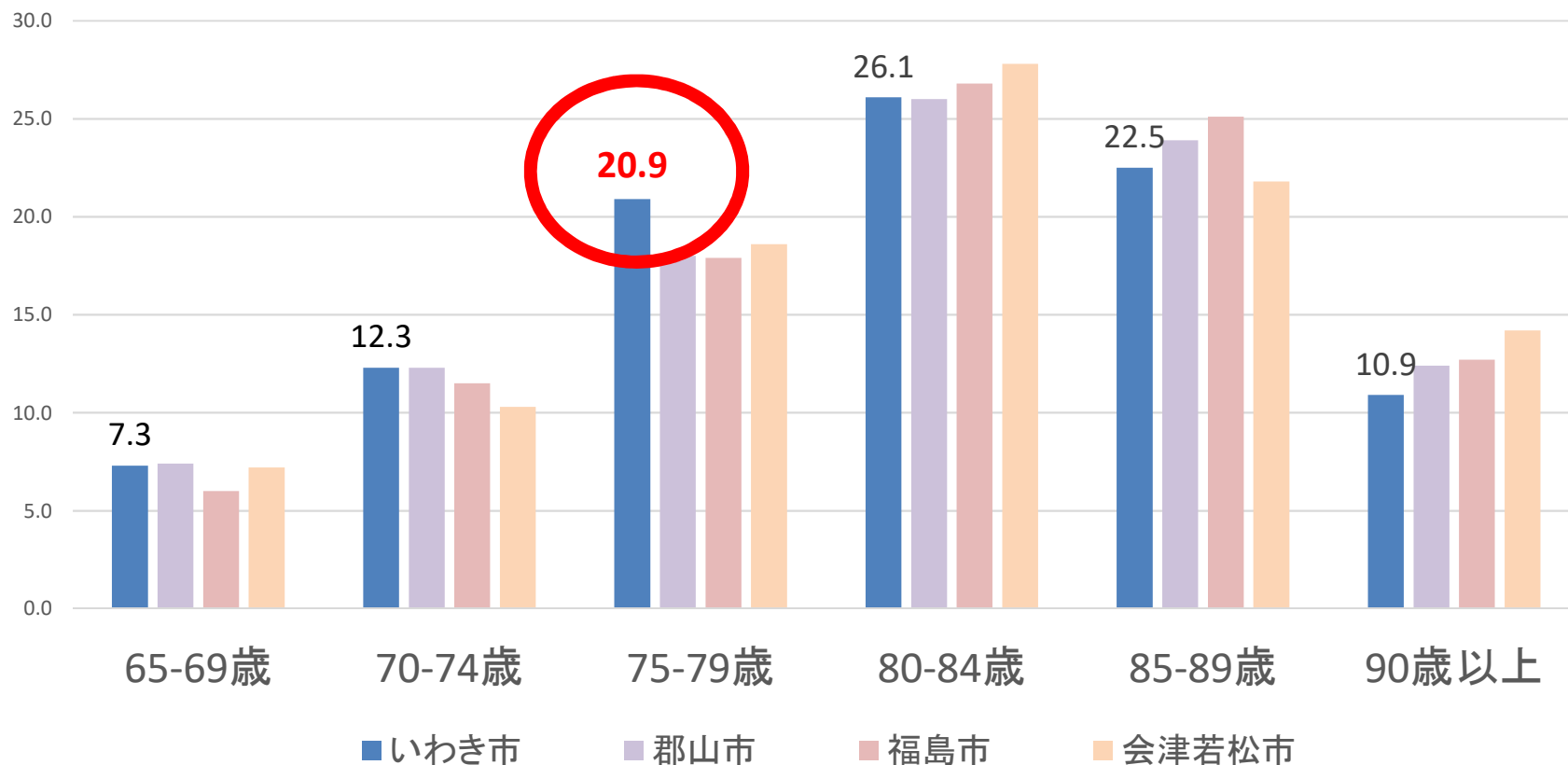
いわき市の要介護認定の状況

	65歳以上人口	認定者数	うち2号 被保険者	出現率 <small>(※65歳以上の認定者数を高 齢者数で除した割合)</small>		
10 年前	平成23年度 (4月末)	84,319	14,602	507	16.7%	3.6ポイント UP
5 年前	平成28年度 (4月末)	93,713	19,511	503	20.3%	
	令和4年度 (4月末)	98,888	20,933	448	20.7%	0.6ポイント UP
今	令和4年度 (9月末)	98,845	21,126	445	20.9%	

出典:いわき市「住民基本台帳」

出現率を年度別推移で見ると、約10年前から5年前では急増。
現在、**高齢者数はピークアウトしたものの認定者数は増加。**

新規要支援・要介護認定者の年齢階級別分布



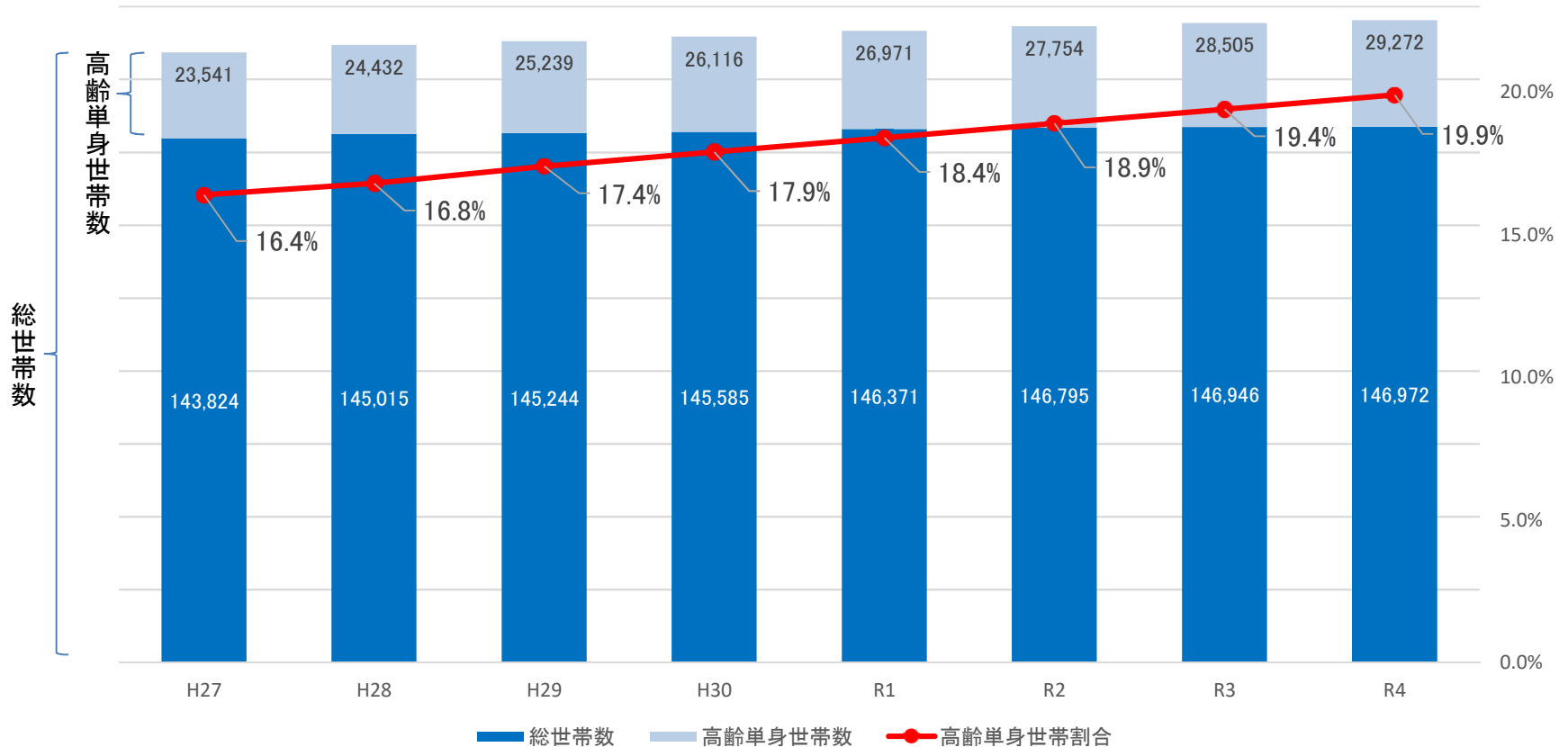
地域包括ケア「見える化」システム

(時点)令和2年(2020年)

(出典)厚生労働省「介護保険総合データベース」(令和3年11月10日時点データにて集計)を基に作成

県内他市と比較し、**75歳～79歳**台の新規認定者が高い
➡無関心層を含めた早期の予防アプローチが必要

いわき市の高齢者の世帯状況



第9次いわき市高齢者保健福祉計画を基に作成

単身高齢者が年々増加しており、今後も増加すると予想される
 ➡ **社会的フレイル（孤立、閉じこもり）の予防**や地域での様々な
 支え合いの仕組みをつくることが大切

要介護（支援）認定者の有病状況

（%）

有病状況	いわき市	県	国
心臓病	63.3	59.5	60.3
高血圧症	57.3	53.5	53.4

出典：KDBデータ（「地域の全体像の把握」R4年度累計）
令和5年2月末時点

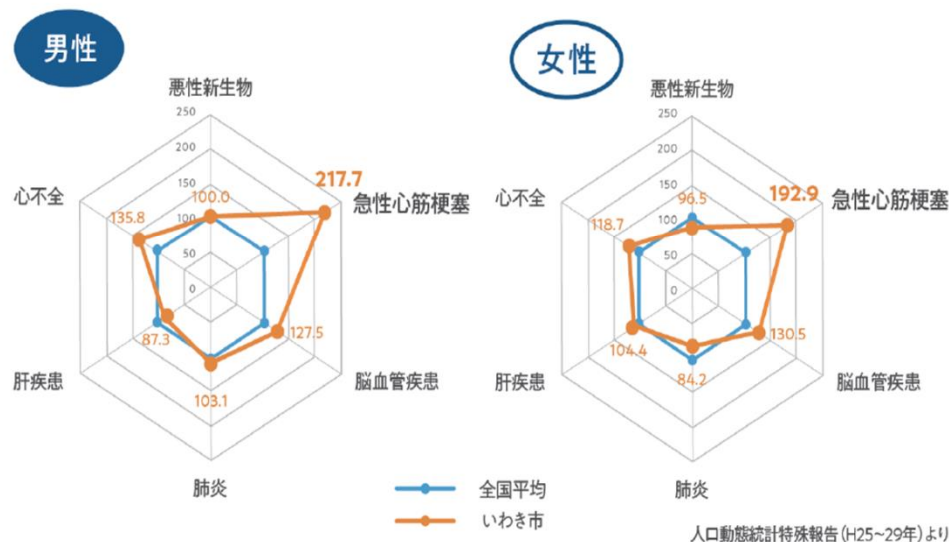
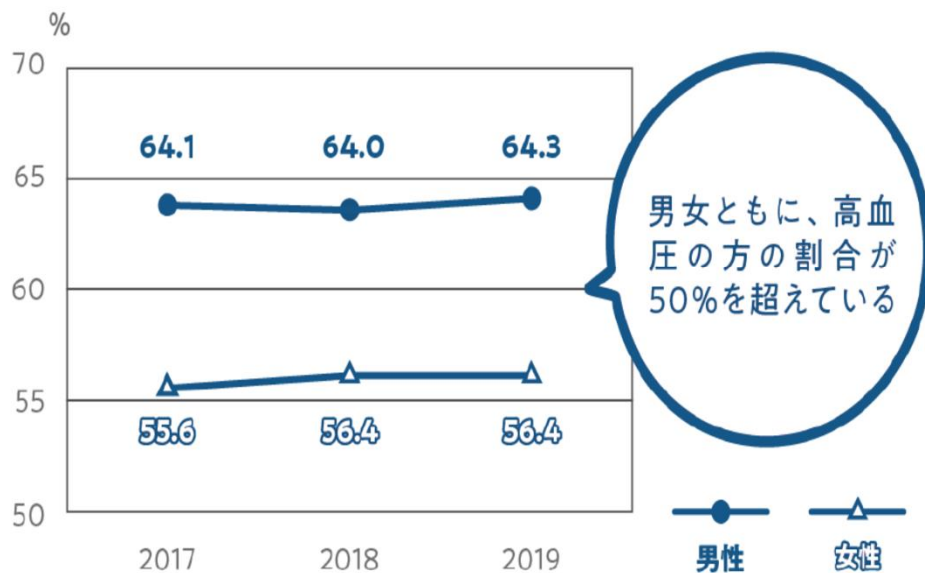
国、県と比較し、高血圧、心臓病の有病率が高い

➡高齡期前からの**生活習慣病対策**（疾病の予防、早期発見、重症化予防）が介護予防につながる

いわき市の健康の現状

いわき市の高血圧の方の割合

急性心筋梗塞 全国平均の倍！



令和3年度第1回健康いわき推進会議にて

いわき市では、高血圧の方が多い。また高血圧に関連する心筋梗塞や脳血管疾患も多く、「**高血圧**」が市の健康課題となっている

➡全世代を対象とした予防・改善が必要

地域包括ケアシステム推進の現状

① 介護予防・生活支援

- ・シルバーリハビリ体操
 - ・つどいの場
 - ・フレイル予防
 - ・いきいきシニアボランティア
- ポイント
- ・配食サービス
 - ・住民支え合い活動
 - ・介護予防ケアマネジメント支援会議

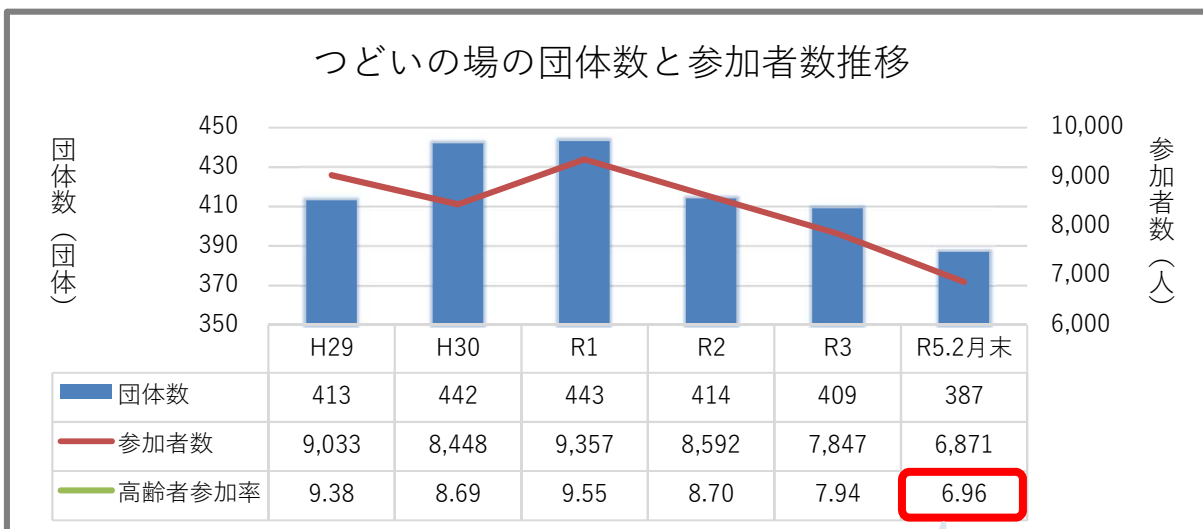


つどいの場創出事業

【概要】

高齢者を中心とした地域住民により主体的に運営されており、シルバーリハビリ体操をはじめとした運動や、専門職による口腔・栄養の講話など、健康づくり・介護予防に関する活動が行われている。

【実施状況】



高齢者参加率

国が示す目標値：2025年（令和7年）までに**8%程度**

活動再開・参加者数の回復に向けた取り組み

「オンラインつどいの場」への参加を働きかけ、タブレット端末を課題解決に活用。

活動再開・継続へ後押し！

●令和4年度（川前町上桶売）
代表者が高齢で退会。後継者不在のため、活動休止。



第2クール実施中

●令和5年度（三和町合戸）
※予定

冬季は降雪で会場まで行けな
いため、休止。



交流の継続に期待

フレイル予防強化月間

高齢者だけでなく現役世代も含め、早期からフレイル予防への関心を喚起することを目的に、2月1日の「フレイルの日」を契機として、令和3年度から2月を「フレイル予防強化月間」と定め、市民への啓発に取り組むもの。

令和4年度実施内容

- ①減塩食普及プロジェクト「いわきひとしお」と連携した弁当（3種）の販売
- ②フレイル予防レシピ集の発行
- ③「健康いわき21推進市民大会」におけるタブレット端末を活用したフレイル判定
- ④フレイル予防に関するリーフレットの配布、広報紙への掲載等による情報発信



～「フレイル」の認知度～

「知っている」人の割合 UP！

年度	R3	R4
いわき市	15.1%	20.3%
福島県	16.6%	19.8%

（健康ふくしま21調査報告書より）

地域リハビリテーション活動支援事業

令和5年度
開始予定

【概要】

リハビリテーション専門職等が、介護職員等への技術的助言などを実施することで、通所介護事業所等における自立支援に資する取組みを促進する。

【経緯】

- 事業所では、専門職の確保が難しい・・・
- 利用者の状態に応じた適切な訓練ができない・・・
- 利用者に対し、効果的な支援ができていますか？

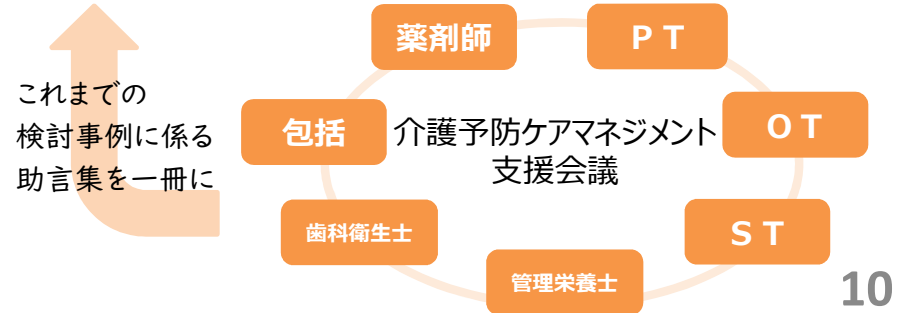


目指すこと

- 事業所等におけるアセスメント力向上
- 介護職員等のスキルアップ
- 専門職等と事業所間のネットワーク構築による連携強化

【実施内容】 いわき地域リハビリテーション広域支援センター等と連携

種別	①基礎講座	②個別指導
対応職種	PT、OT、ST、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士 ※②は、PT、OT、STの3職種でスタート	
対象	【①②共通】居宅介護支援事業所、通所介護事業所、通所リハ事業所 【①のみ】地域包括支援センター	
実施方法	集合方式	事業所訪問又はオンライン
主な内容	アセスメントの視点と方法など、基礎的な講話 「介護予防ケアマネジメント支援会議におけるアドバイスまとめ集」を活用	・訓練プログラムの提案 ・介助やトレーニング方法の提案 ・歩行状態確認から利用者に適した補助具の紹介、施設内環境に関するアドバイス 等



いきいきシニアボランティアポイント事業

【目的】

- ①高齢者自身の社会参画の促進
- ②介護予防
- ③地域包括ケアの推進

【内容】

市が指定したボランティア活動に参加した高齢者にポイントを付与し、当該ポイントを商品に還元する事業。



【対象者】

市内に住所を有する65歳以上の方
(介護保険第1号被保険者)

【実績】(令和4年度2月末現在)

- 登録者数：881人
- 受入機関数：153施設

【対象となる活動】

- ・シルリハ指導士
- ・つどいの場サポーター
- ・支え合いサポーター
- ・認知症カフェサポーター
- ・受入機関でのボランティア

令和
5年度

受入機関(介護サービス事業所等)
に向け、受入促進のはたらきかけ

配食サービス事業

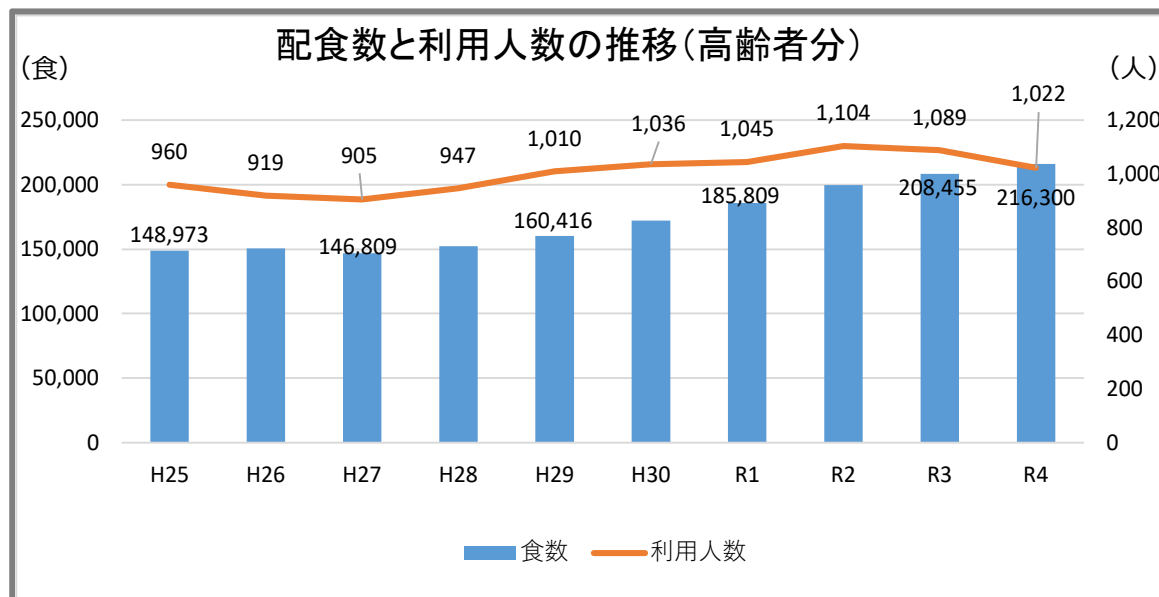
安否確認
+
食(栄養)
確保

【概要】

ひとり暮らし高齢者等で調理が困難な方に対して、栄養バランスのとれた食事を訪問により提供し、栄養管理、自立の促進、生活の質の確保を図るもの。

【実績】

事業開始以降、配食数は右肩上がり。平成25年度と令和4年度を比較すると、高齢者数の伸びが約1.13倍であるのに対し、配食数の伸びは、約1.45倍となっている。



※令和4年度は、見込値

【これまでの課題】

中山間地域の一部には
配達できない・・・



令和4年10月1日から
新たに事業者が加わり、
市内全域対応可能に
(全25社)

住民支え合い活動づくり事業（市社協委託）

【概要】

住民主体による生活支援サービスの創出により、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる地域を目指す。

地域ならではのオーダーメイドな取組み

立ち上げ

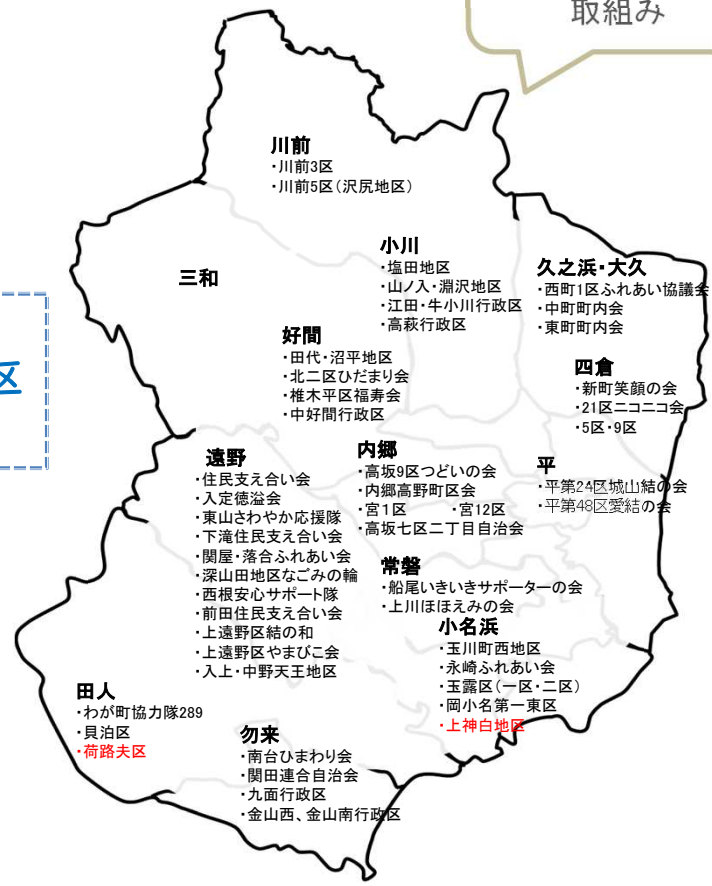
平成27年度～
モデル事業
第3層協議体(自治会などの圏域)
15団体よりスタート ■■■▶ 現在**48**団体(R5.1現在)

今年度
荷路夫区・上神白地区
で新規立ち上げ

平成29年度～
本格実施
第2層協議体発足(日常生活圏域13地区)

令和3年度～
第1層協議体発足(市内全域 ※現在市直営事業)
各活動団体・関係機関の交流、情報交換、検討の場
(目指す地域像の共有)

活動継続・創出・充実



第3層協議体（48団体;自治会など）

【主な活動】

見守り、声かけ、ゴミ出し、草刈りなど

【コロナ禍の取組み】

電話による声かけや、チラシの配布、少人数に分かれての活動など、工夫しながら活動を継続している。コロナ以前のような活動を再開する団体も徐々に増えている。



【高校生と鉢植えを配りながら地区の高齢者宅を訪問し見守り活動】

第2層協議体（13圏域;支所単位）

【主な活動】

各地区の取組みや課題の共有・検討、他地区の取組みに関する勉強会など



【平地区第2層協議体会議（2月27日）】

地区住民の困り事や、地区の課題をどう支援・解決していくか話し合います

第1層協議体（市内1圏域）

2月1日開催

【主な活動】

市全体での取組みの共有・情報発信など



【市内で活動される皆さんと情報交換】



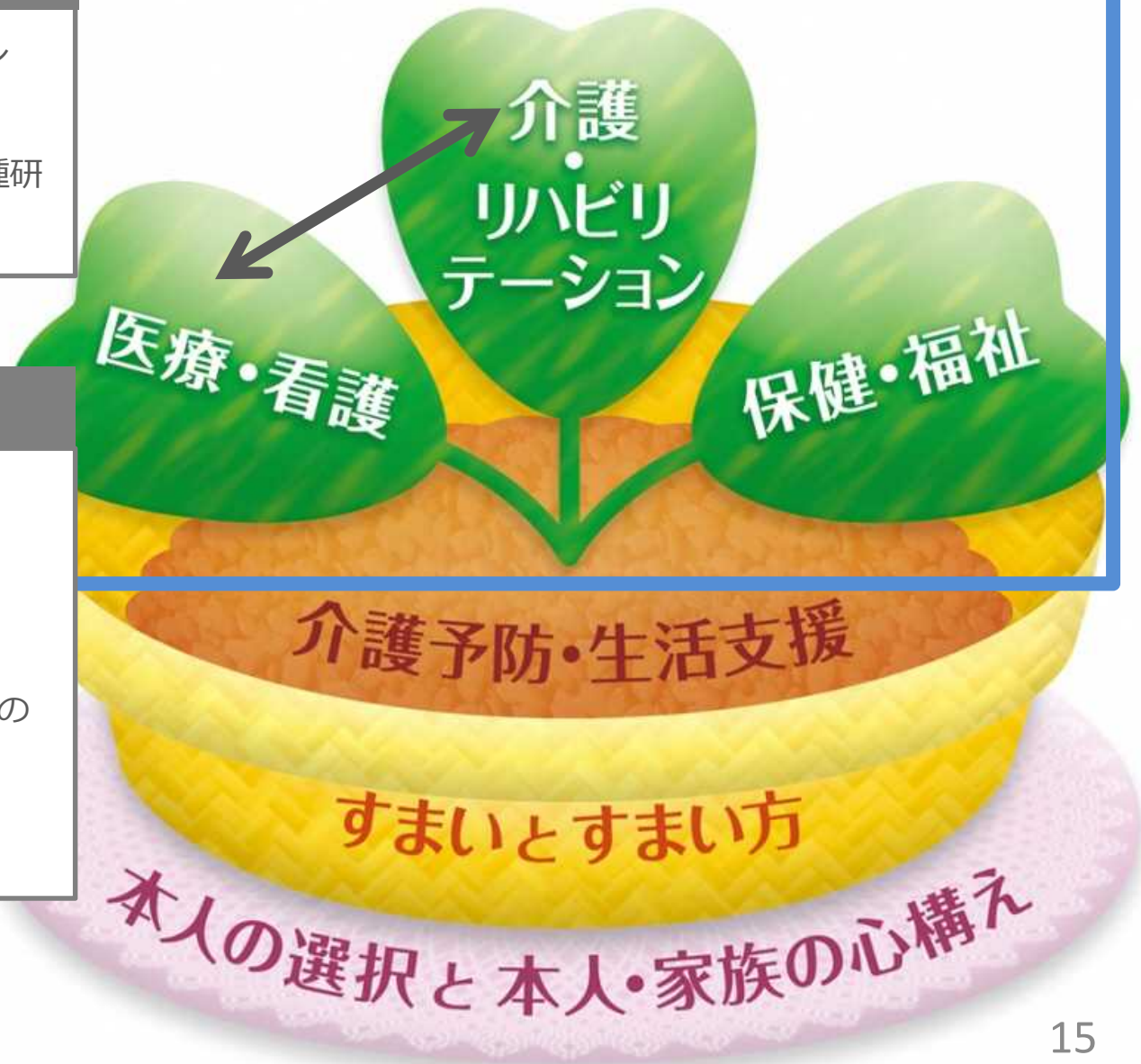
【他の地区ではどんな情報発信をしているのかな】

① 医療と介護の連携

- ・ 在宅医療・介護連携支援センターの設置
- ・ 退院調整ルール
- ・ 在宅医療推進のための多職種研修会の開催

② 認知症ケア

- ・ 認知症初期集中支援チーム
- ・ VR 認知症体験
- ・ 認知症サポーター養成
- ・ オレンジカフェ以和貴
- ・ ミーティングセンター「よもの会」
- ・ チームオレンジの構築



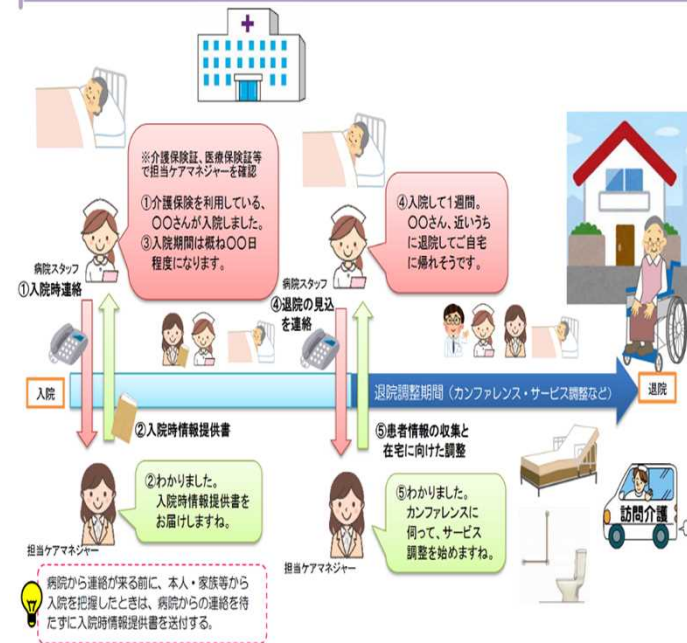
いわき医療圏退院調整ルールについて



介護を必要とする患者が、病院から退院後に切れ目なく必要なサービスを受けられるようにするため、病院とケアマネージャーが連携して、入院時から情報を共有し、退院に向けた連絡・調整を行う仕組み。

退院調整ルールの流れ

(1) 入院前にケアマネージャーが決まっている場合(入院前に介護保険サービスを利用していた場合)



➤ R3年度より、退院調整率が低下した要因の1つには、コロナウイルス感染症での入院が影響している。

○退院調整ルールでは、お身体の状態に変化のない検査・短期入院・同じ病気で短期間に入退院を繰り返す場合は、ルールを適用しなくとも良いとしています。コロナウイルス感染症(感染症法2類)での入院は、ルール適用外とは現時点ではしていない。

○退院調整運用アンケートは、毎年7月～8月の入院に関し調査している。R4年7月～8月はコロナウイルス感染症の急増期であり、コロナ感染症入院が増加した時期であった。



在宅医療推進のための多職種研修会

在宅医療と介護サービスの一体的な提供を行うためには、医療と介護関係者が顔の見える関係性を構築し、お互いの職種の理解を深め、連携行っていくことが重要であることから、市医師会と共同で研修会を実施している。

【受講対象者】

- ① 医師会等医療・介護関係団体所属会員
- ② 上記関係団体に所属されていない医療・介護職等従事者

令和4年度開催状況

【開催日時】令和4年11月2日(水)

午後6時30～8時

【開催方法】Zoomウェビナーによるライブ配信

【受講者】295人

テーマ: 日頃の実践から捉えるACP

講義内容	講師
1 在宅におけるACPの実際	竹林貞吉記念クリニック 院長 洪 浩彰氏 訪問看護ステーションきゅあ 所長 藤谷 なおみ氏 ときわ会居宅介護支援センター 管理者 馬目 竹美氏
2 緩和ケアの取組について	いわき市医療センター 看護師長(緩和ケア認定看護師) 小野寺 志保氏 呉羽総合病院 病院長 緑川 靖彦氏
3 いわき市の救急の現場から	いわき市消防本部 警防課 救急係長 岡部 和法氏
4 総括	あんざいクリニック 院長 安齋 光昭氏

ACP: advance:前もって care:医療やケアについて planning:計画すること

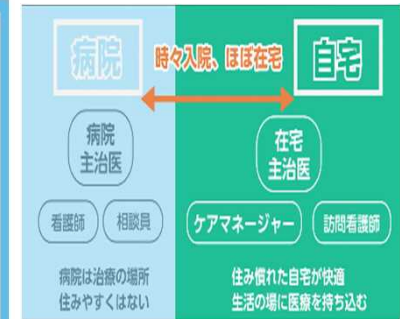
人生の最終段階の治療、療養について、患者・家族と医療従事者等があらかじめ話合うこと。



地域包括ケアを担う多職種の役割(DVD教材の作成)

医療・介護をはじめ「地域包括ケア」を担う多職種の役割について、小中学生を対象にわかりやすく解説。職種や取組み、連携について学び、医療介護に対する理解・認識を深め、将来の医療介護人材の確保、育成を目的に、映像による情報発信、授業を展開する。

学年	授業内容	授業の講師
小学4年生	認知症(絵本)教室 (1)認知症の分かりやすい授業 (2)認知症絵本教室	医師・包括支援センター職員・ キャラバンメイト等
小学5年生	医療・介護の色々な仕事に関する授業 (1)多職種の仕事の内容について (2)多職種連携と地域のつながりについて	医師・歯科医師・薬剤師など多 職種メンバー
小学6年生	がん・タバコ特別授業 (1)がん博士の講義 (2)「がんってなんだ?」一緒に考えようpart1	医師・歯科医師・薬剤師・看護 師
中学1年生	認知症教室 (1)認知症のやや詳しい講義 (2)認知症の方と医師の会話	医師・歯科医師・薬剤師など多 職種メンバー
中学2年生	多職種連携と地域包括ケアの授業 (1)多職種の仕事の内容について (2)多職種連携と地域包括ケアの授業	医師・歯科医師・薬剤師など多 職種メンバー
中学3年生	がん・タバコ特別授業 (1)「がんってなんだ?」一緒に考えようpart2	医師・歯科医師・薬剤師・看護 師



【活用方法】

- ・小・中学生向け「いのちの授業」研修会を開催し、市内の医師、歯科医師、薬剤師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、ケアマネジャー等を対象に活用方法について周知を図る。
- ・市内小中学校の総合的な学習の時間で活用

ミーティングセンター「よもの会」

～認知症の人と家族への一体的支援事業～

【概要】

認知症当事者や家族が集まり、日々の想いや暮らしやすい地域の在り方などを語り合うことで、一人では諦めてしまっていたことを、メンバーと一緒に実現していく場。

- 日程：毎月第1火曜日 14時00分～15時30分
- 対象：初期の認知症の方、いわゆる空白の期間に該当する方とそのご家族など

認知症
地域支援推進員を
中心に運営

【経過】

4組

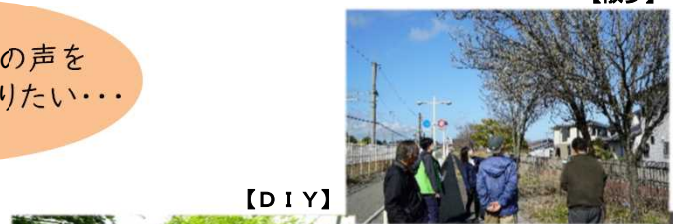
令和2年10月
本人ミーティングとして
＼スタート／

認知症当事者の声を
直接聴く場をつくりたい…

9組

令和4年度
ミーティングセンターとして
事業継続
(R5.2月現在)

参加者の声を地域に伝え、地域の
「認知症バリアフリー」を推進していきます



【散歩】



【DIY】



【クリスマスコンサート】



【園芸】

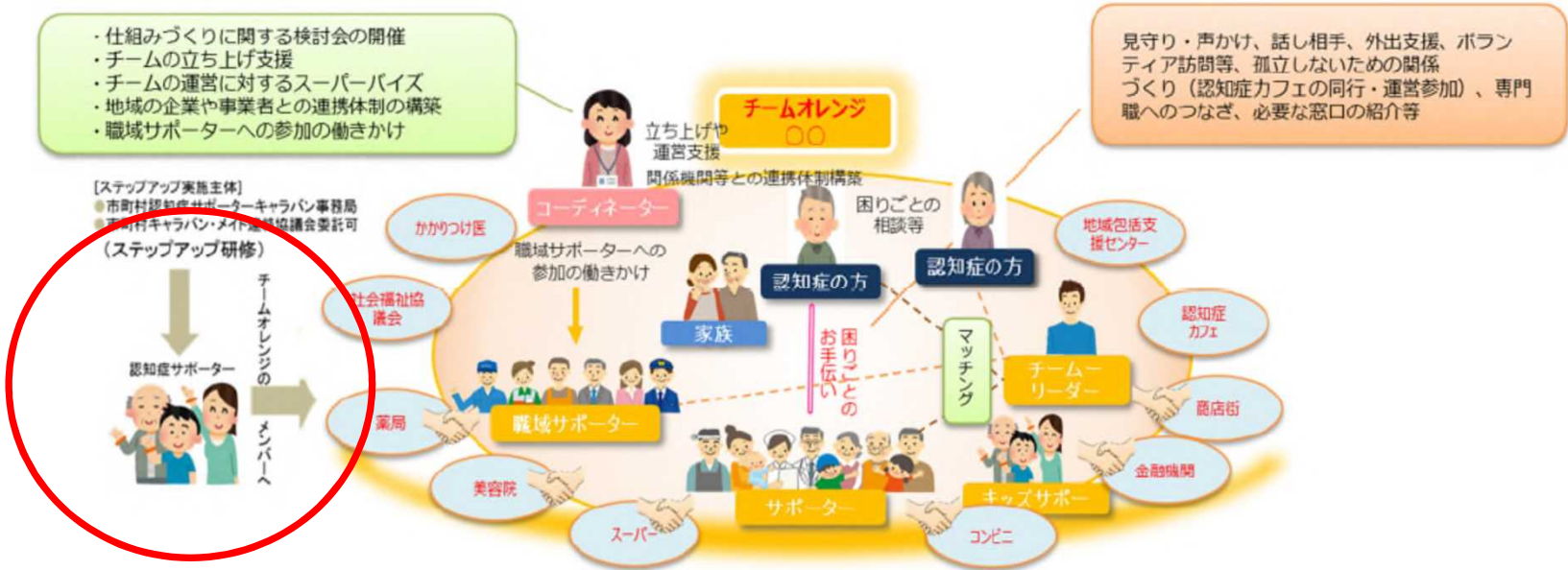
ご本人の意見
(やりたいことや
特技)を反映

チームオレンジの構築に向けた取組み

「チームオレンジ」とは

認知症と思われる初期の段階から、心理面・生活面の支援として、市町村がコーディネーターを配置し、地域において把握した認知症の方の悩みや家族の身近な生活支援ニーズ等を認知症サポーター（認知症サポーター養成講座に加え、ステップアップ講座を受講した者）を中心とした支援者をつなぐ仕組み

【認知症施策推進大綱：KPI／目標】2025（令和7）年までに全市町村でチームオレンジを整備



STEP1: ステップアップ講座の開催
(令和5年度予定)

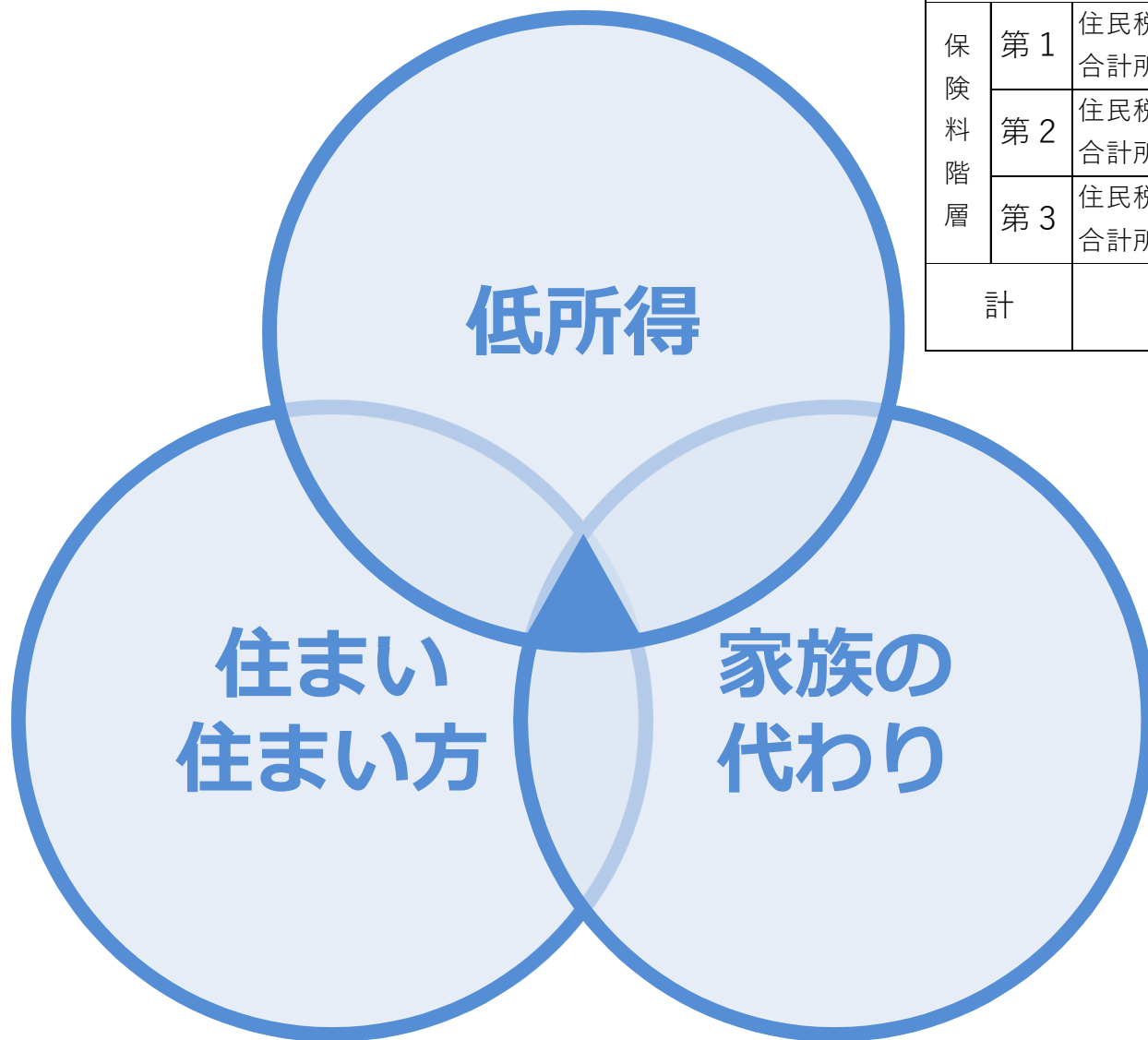
(厚生労働省認知症施策・地域介護推進課資料より)



低所得で、家族がいない方の住まいの問題

〈基礎的データ〉

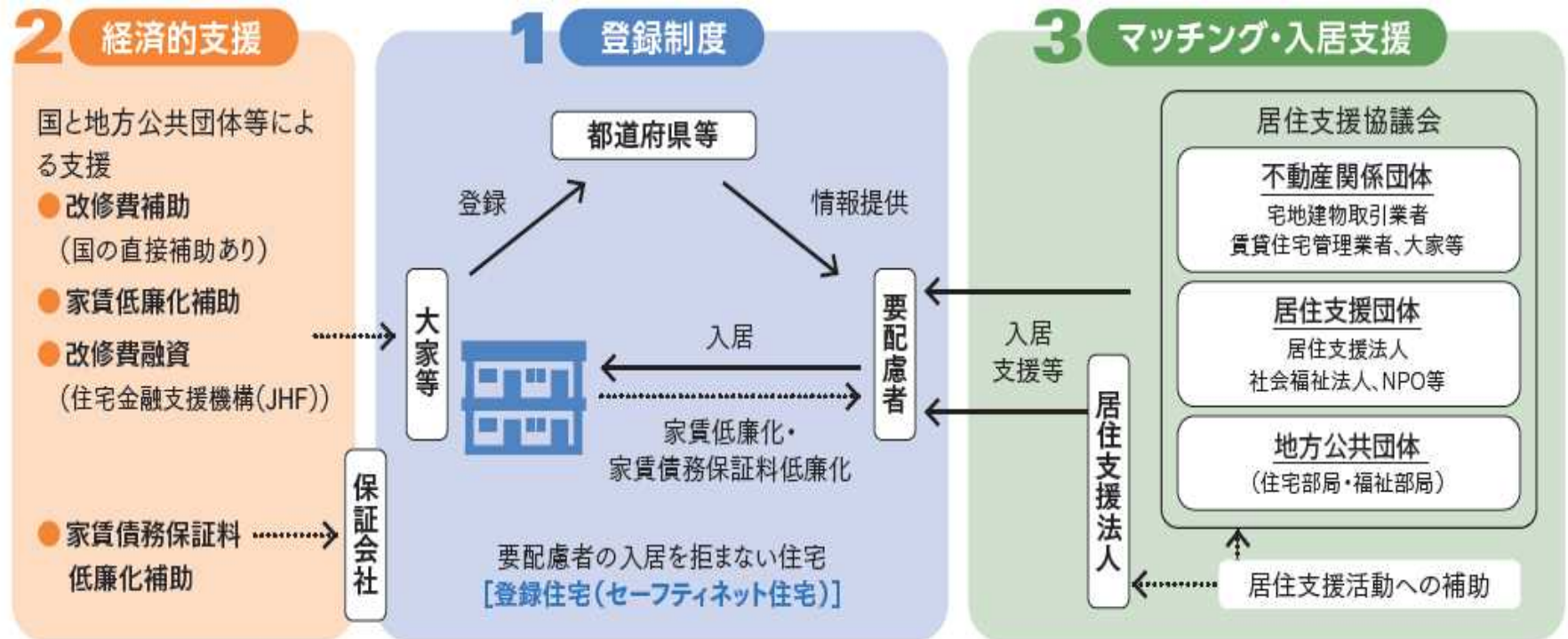
		区 分	R 元	R 2	R 3
保 険 料 階 層	第 1	住民税非課税世帯 合計所得80万円以下	15,936	15,900	15,618
	第 2	住民税非課税世帯 合計所得80～120万円	8,019	8,324	8,674
	第 3	住民税非課税世帯 合計所得120万円超	6,864	7,086	7,367
計			30,819	31,310	31,659



住まいを移る際や
入院・入所の際に、
「身元引受人」や
「連帯保証人」が
確保できないケースが
増えてきている。
今後、更に増加が
予想される。

住宅セーフティネット制度とは・・・

民間の賃貸住宅の空き室等を活用して、住宅の確保や入居が困難な住宅確保要配慮者を支援することで、「住宅の確保が困難な方」と「民間賃貸住宅の空き室等」をマッチングし、入居者と賃貸人の双方の課題解決を図るための制度です。



住宅確保要配慮者とは

法律で定める者

- ① 低額所得者（月収15.8万円以下）
- ② 被災者（発災後3年以内）
- ③ 高齢者
- ④ 障害者
- ⑤ 子ども（高校生相当まで）を養育している者
- ⑥ 住宅の確保に特に配慮を要するものとして国土交通省令で定める者

⑥の国土交通省令で定める者とは

- 外国人 等
条約や他法令に、居住の確保に関する規定のある者を想定しており、外国人のほか、中国残留邦人、児童虐待を受けた者、ハンセン病療養所入所者、DV被害者、拉致被害者、犯罪被害者、矯正施設退所者、生活困窮者など
- 東日本大震災等の大規模災害の被災者
発災後3年以上経過

● 都道府県や市区町村が供給促進計画※において定める者

地域の実情等に応じて、海外からの引揚者、新婚世帯、原子爆弾被爆者、戦傷病者、児童養護施設退所者、LGBT、UIJターンによる転入者、これらの者に対して必要な生活支援等を行う者などが考えられる。

※ 各自治体の計画策定状況に関する情報はセーフティネット住宅情報提供システムにて提供しています。（7ページ「賃貸住宅供給促進計画の策定状況」参照）

● 市独自に9つの属性を追加

- ① 海外からの引揚者、② 新婚世帯（結婚後5年以内）、③ 原子爆弾被爆者、④ 戦傷病者、⑤ 児童養護施設退所者、⑥ L G B T（レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダー）、⑦ U I J ターンによる転入者、⑧ 住宅確保要配慮者に対して必要な生活支援等を行う者、⑨ 地域の居住支援団体が住宅確保要配慮者として認めた者

住宅セーフティネットの取組み

市内の居住支援法人

社会福祉法人 エル・ファロ(R4.2.1指定)

業務場所: 泉町滝尻字御前田38-3 コーポあしたば1-A

支援内容: 住宅相談窓口の設置、入居に関する情報提供・相談、入居手続きの支援、見守り、生活支援

- R4.2月 セーフティネット住宅(コーポあしたば)の1室に「居住支援センターはばたき」を開所。
- R4.5月 市内不動産業者の大徳産業(株)と住宅確保要配慮者を支援するための協定を締結。
- 居住支援として、入居前の相談、物件内覧・契約時の付き添い、入居後の電話・訪問等による安否確認

特定非営利活動法人 地域福祉ネットワークいわき(R4.2.17指定)

業務場所: 平字菱川町1-3

対象者: すべての住宅確保要配慮者

支援内容: 住宅相談窓口の設置、入居に関する情報提供・相談、入居手続きの支援、見守り、生活支援

- R4.4月 居住支援法人としての活動を開始
- 居住支援として、物件紹介・同行、契約時の支援、入居時の保証等(入居・入所・葬送等支援事業)、入居後の安否確認
- このほか、市からの委託を受けて「地域包括支援センター」「障がい者相談支援センター」を運営

入居・入所・葬送等支援事業 (NPO法人地域福祉ネットワークいわきによる独自事業)

これまで親族が担ってきた入居（入所）保証、葬送支援等について、親族がいない場合や、親族はいるが親族外による身元保証を希望する際に、**事前に本人の意思を尊重しながら**、終末期を含め、本人が安心して暮らし続けることができるよう支援するもの。

【対象者】 ※本人負担：500円/月

市内に居住する次の全てを満たす方

- 1 本人の前年の合計所得金額が125万円以下
- 2 本法人による保証等について本人自身（後見人等を含む）が希望している。
- 3 契約締結が可能

【支援内容】

- ① 入居・入所保証
 - ② 葬送支援（火葬、埋葬）
- ※①、②に関連して、電話や訪問による安否確認や、エンディングノート等による意思確認を行う

【相談・契約件数】

件数の増加

(件)

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度(R5.1月末)		合計	
	相談件数	契約件数	相談件数	契約件数	相談件数	契約件数	相談件数	契約件数	相談件数	契約件数
入居	65	36	139	112	139	113	138	101	481	362
入所	29	11	41	19	19	9	16	4	105	43
葬送	18	1	24	4	19	13	28	23	89	41
その他	12	0	1	0	17	6	11	2	41	8
計	124	48	205	135	194	141	193	130	716	454



エンディングノートの普及啓発

地区保健福祉センター又は地域包括支援センター窓口で配布。
また、在宅医療出前講座等で活用。



発行部数(合計)：累計5万部

エンディングノート作成支援事業 (※NPO法人地域福祉ネットワークいわきによる独自事業)

エンディングノートの作成機会を設け、一人ひとりが自らの今後を考え意思表示できる機会の確保の実現を目指す。

わたしの想いをつなぐノート活用に向けた取組み

令和5年度市役所出前講座 新規メニュー「在宅医療・介護について」を開設し、わたしの想いをつなぐノート等を活用し周知啓発に努める。

つながる・いわき事業 igoku

「地域包括ケアシステム」の姿やその理念について、医療・介護の関係者のみならず、いわき市で暮らすあらゆる方々に、我が事として共有していただけるよう、高齢者のみならず、障がいのある方、子どもなどに関する取り組みも交えながら情報発信を行う事業。

自分が望む最期や死について考える機会として 映画「みとりし」上映会を開催（令和4年9月23日）



両親に最期をどうしたいのか。家族で話し合うきっかけになりました。(40代女性)

悲しいことだけでなく、愛されていることを感じながら死を考えることが大事だと思った。(50代男性)

自分の最期をどう迎えるか考えるきっかけになった(40代男性)

①高年齢者生活安全部会

第1回 6月15日開催

- 認知症施策推進大綱を踏まえた今後の取組み
 - ・「共生」と「予防」を両輪として、普及啓発・本人発信支援等に取り組む
- 新たな取組みの進捗報告
 - ・ミーティングセンター「よもの会」・ものわすれ相談会

第2回 9月21日開催

- 認知症初期集中支援チームの活動状況
 - ・対象者の把握ルートやチーム介入前後の状況等の情報共有
- ものわすれ相談会について
 - ・認知症地域支援推進員による空白の期間における取組み
- チームオレンジの取組み
 - ・2025年までの構築に向けた進め方について

第3回 12月14日開催

- 認知症初期集中支援チームの活動状況
 - ・チームの活動における課題や成果の共有
- 認知症地域支援推進員について
 - ・推進員の役割及び活動内容紹介

②健康と生きがいづくり部会

第1回 6月21日 オンライン開催

- 生活援助サービスについて
- 短期集中予防サービスについて
 - ・各サービスの充実化に向けた検討

③医療と介護連携促進部会

第1回 9月14日開催

- 在宅医療・介護連携推進事業に係る令和3年度取組状況及び令和4年度の取組みについて報告
- 在宅医療・介護連携に関する目標・評価指標について

第2回 3月15日開催

- 在宅医療・介護連携に関する目標・評価指標・課題について
- 在宅医療に関する市民向けパンフレットについて

平地区

第1回：7月28日(対面)
第2回：1月20日(書面)
第3回：2月24日(対面)

＜主な検討・取組事項＞

○高齢者等の移動手段に関するアンケート調査
→今後、高齢者の移動に関してケア会議を主体とした勉強会を開催していく

小名浜地区

第1回：3月予定
(対面又は書面)

＜主な検討・取組事項＞

○移動・外出困難について

勿来・田人地区

開催予定なし

＜主な検討・取組事項＞

○「在宅生活」「コロナ禍における啓蒙活動の実施方法について」

常磐・遠野地区

第1回：2月16日(対面)

＜主な検討・取組事項＞

○第9次いわき市高齢者保健福祉計画における常磐・遠野地区での今後の取組みについて
○高齢者の意思決定支援について(エンディングノートの普及・啓発)
○「常磐・遠野いきいき健康塾」について
○マルト浅貝店の閉店に伴う買い物支援について

内郷・好間・三和地区

第1回：7月7日(対面)
第2回：2月16日(対面)

＜主な検討・取組事項＞

○中山間地区(三和町合戸地区)におけるフレイル予防の取組みについて(セルフケア・重度化防止)

四倉・久之浜大久地区

第1回：7月7日(対面)
第2回：3月2日予定(書面)

＜主な検討・取組事項＞

○令和4年度よつくら塾の報告
○小地域ケア会議の報告
○避難所の運営や要支援者について
○令和5年度に実施したいこと

小川・川前地区

第1回：10月13日(対面)
第2回：2月15日(対面)

＜主な検討・取組事項＞

○健診結果相談会や健康教室の開催について(第9次いわき市高齢者保健福祉計画)
○小川寺子屋の再開・運営に関する事業計画について
○川前町の小さな拠点「おおか」について

平地区 アンケート

高齢者の移動支援を検討するにあたり、日ごろの外出方法や困りごとについて実態と課題を把握するため11~12月実施。
対象：介護認定非該当~要介護2相当の高齢者・障がい者
今後、勉強会を開催しながら必要な支援策を検討する。

常磐地区 アンケート

令和4年4月のマスト浅貝店閉店に伴うもの。10~11月実施。
対象：地区包括支援センターが把握する、
常磐湯本町八仙・上浅貝・下浅貝の独居高齢者
どのような支援が図れるか、社会福祉法人や企業等と検討。

四倉地区 よつくら塾

介護予防の普及・啓発のための講話を実施(全5回)

1回目 6/29 講師 木村医院 木村守和塾長
「~新型コロナをのりこえて~
健康で長生きできる地域包括ケアのまちづくりを」

2回目 7/26 講師 終活アドバイザー 飯田 教郎 氏
「エンディングノートの作成」

3回目 8/25 講師 医師 佐藤 かおる氏
「アレルギーのお話し」

4回目 9/28 歯科衛生士 島 美香 氏
「お口の健康と口腔ケア」

5回目 10/26 理学療法士 齊藤 隆 氏
「認知症予防に効果のある(簡易な)運動」

小川・川前地区 川前地区高齢者等支援ネットワーク連絡会

次ページ

《つながる・集まる・川前町の小さな拠点づくりプロジェクト》
~将来も安心して暮らし続けることができる川前町の実現~

これまで川前町での暮らしなど地域課題についての検討や取組みを継続して行ってきた。川前町では**急激な人口減少・高齢化**に加え、**社会資源が乏しく**、【小さな拠点】を核とした地域づくりにより、地域課題を解決する機運が高まったことから、連絡会役員を中心として《NPO法人小さな拠点おおか》を令和5年2月設立。4月以降、拠点での活動を順次開始予定。現在、拠点となる古民家の改修中。



NPO法人小さな拠点おおか ～おけうり・おじろい・かわまえ～

ただいま
改修中



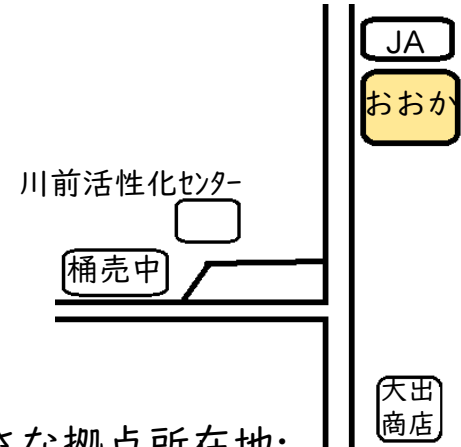
《これまでの経緯》

◎平成29年から「川前町で暮らし続けるため」にどのような取り組みが必要か、検討を重ねていた。課題のひとつひとつを個別に解決することは難しいかもしれないが、「**小さな拠点**」に人が集まることで解決できないか、というアイデアが生まれる。

◎地域住民が主体となり、地域の声を反映しやすい体制として**NPO法人の設立を選択**。

(令和4年12月5日設立総会 **令和5年2月法人設立登記**)

◎**小さな拠点でのサービス**については**次ページ**のとおり。
※インフォーマルサービスを軸とし、川前町で必要とされるサービスを検討。有償ボランティアを中心として提供予定。



【小さな拠点所在地：
川前町下桶売字矢田谷地 地内】

NPO法人小さな拠点おおか ～おけうり・おじろい・かわまえ～

小地域ケア会議(川前地区高齢者等支援ネットワーク連絡会)から生まれたプロジェクト

川前町の福祉の拠点(案)

介護事業所と、併設の交流スペースを基盤として、ボランティアな活動やサービスを展開し、地域の人に限らず、さまざまな専門職等が集まり活動する拠点となるイメージです！

要介護・要支援・事業対象者など、介護保険サービスや総合事業の対象者が利用

通所介護 (&通所型サービス)

送迎・入浴・昼食
健康チェック
機能訓練 など

お泊りサービス (お泊りデイ)

〈希望者〉
夕食持ち帰りサービス(自費)

交流スペース & インフォーマルサポート

高齢者カフェ・ワークスペース
ボランティア活動※

買物支援 & 外出支援

(自費・定額制)

地域住民などの有償ボランティア

(将来的には)
有料老人ホーム
5床程度

※ボランティア活動の例
花壇や畑などでの作業
食事づくりのお手伝い
送迎者の洗車や簡単な手入れ など
得意なこと活躍する機会

※65歳以上で無償の活動はボラボ

★サービス提供の案
医師の往診
薬剤師によるお薬相談等
専門職による各種相談
オレンジカフェの開催
介護予防講座の開催

★川前町の医療や介護の不足を補う

川前町に提供
に入る医療・介護
事業所・包括職員等
(簡易な事務や休憩含む)

サービス提供(★)の場
情報共有と交流の場
地域と関係者だけではなく、
関係者間の交流の場

茶話会やランチ
などの交流の場

お元気高齢者などを中心に
地域の誰もが利用でき、
ボランティアでも参加可能

三和町合戸地区 ～きづく・つながる・うまれる～

フレイル予防から支え合いの地域づくりへ

地域住民×企業×医療福祉専門職×地域包括支援センター×地区保健福祉センター×社会福祉協議会

概要

中山間地域において、高齢になっても、安心して自分らしく暮らせるよう、地域のつながりを通じた「健康づくり」と「生活支援」の持続的な取組みを行い地域全体の活性化を図る。

■対象地区：三和町合戸地区

■協力者

地域関係者（自治会、民生委員等）
医療福祉専門職（PT, OT, 薬剤師,
栄養士, 歯科衛生士等）
地元企業, NPO法人

取組みの経緯・背景

「中山間地域における生活状況・生活の困りに関するアンケート調査」結果から、介護サービス・の少ない三和地区での「介護予防」の推進を優先課題と位置付ける。

いろいろなサービスが、多様な担い手によって提供される



取組の展開

STEP1

現状分析・把握

- ・つどいの場等、社会資源の不足
- ・元気なうちから介護予防に取組む意識醸成

■現状・地域課題

- ・つどいの場が少ない
- ・冬期間は閉じこもりがちになる
- ・認知症への対応に不安
- ・買い物支援、外出支援などの生活支援がほしい
- ・介護が必要になってもサービスが受けられるのか不安
- ・社会資源が不足していることから、個々に運動、栄養、活動などについて心がけて生活している

STEP2

地域へのアプローチ

- ・地域行事を活用し、健康づくりや介護予防意識を調査
- ➡自宅で行う「介護予防プログラム」を検討

■三和の里フェスティバル
(R4.11.2/三和ふれあい館)

- ・体組成計、骨密度、糖化測定
- ・運動、栄養、活動についてアンケート
- ・VR認知症体験

■個別支援プログラム検討

- ・地域関係者、保健医療・福祉関係者、地域包括支援センター、社会福祉協議会、地区保健福祉センター
- ・提供内容、評価指標、対象者の決定

STEP3

個別支援の開始

個別支援開始
(令和5年3月14日～)

みんなでも
ひとりでも
続けられる

■対象者

- ・合戸地区つどいの場参加者等10名

■内容

- ・運動、口腔、栄養に関するフレイル予防プログラム

■期間

令和5年3月～9月(半年)

■フォローアップ

- 初回、半年で体力測定
- 中地域事務局が自宅を訪問し継続を支援する

《三和の里フェスティバル》



参加者の声

- 畑仕事や散歩、体操など体を動かすようにこころがけている。
- 野菜を多く、たんぱく質を摂取するように、塩分控えめにしている。
- カラオケ、陶芸・パッチワーク等趣味活動、買い物などで週に1回程度は外出している。

課題

- 一人での運動や体操の習慣化、継続が難しい
- 冬期間はつどいの場が休みになるので閉じこもりがち
- つどいの場や集まりのある日に声をかけてくれる人や送迎があるとよい。
- 地域に気になる人がいるが、きっかけが作れず声をかけにくい。

つながる・いわき事業

facebookによる情報発信

igoku

子ども食堂



グッドデザイン金賞受賞!

ありがとうございます!



igoku



igoku いわきの地域包括ケア「いごく」

2,468件の「いいね!」・フォロー2,708人

地域包括ケア推進課の取組み、市内の様々な「いごき」をリアルタイムに発信!

igoku いわきの地域包括ケア「いごく」

2月1日・🌐

【いわき支え合いのまちづくり座談会】

みなさんこんにちは!

紙のいごく13号、発送作業も大詰め!すでにチェックして下さった方もいらっしゃるでしょうか?~?

さて

今日は先ほどまで「いわき支え合いのまちづくり座談会」が行われていました!いわき市では、誰もが自分らしく安心して暮らしていけるお互いさまのまちづくりを目指して、「いわき市住民支え合い活動づくり事業」を実施。

自治会や行政区を単位として平成27年度のモデル事業からスタートし、現在は48団体がオンラインの地域づくりを目指して「見守り活動」や「地域のちょっとした困りごとの解決」などに取り組んでいます。

今日は、支え合い活動を実践している活動団体の代表の方や、地域のまちづくりやその仕掛けをして下さっている方と、一緒にテーブルを囲み、情報の共有・交換を行いました!

地区で行う様々な取組み事例を持ち寄り、地域の子供達や企業・団体をどう活動に取り込んで一緒に活動しているのかや、地域でどういう手法で情報発信をしているかなどを共有。

「こんなことやってるんだ!」「こうできたらいいよね!」「うちでもこういう悩みがあるよ」「こんなふうで解決してるよ!」など、ざっくばらんに自由な意見交換が行われました!

移動支援や後継者問題、地域で協力して下さる方へのアプローチ方法など、

話は大いに盛り上がり、予定時間を大幅にオーバー...

まだまだ話足りないですが、また次の機会に!

この様子は、後日「支え合い互版」として、支え合いに関わる方・活動に興味のある方へお届け予定です。

真冬に、アツイ議論が交わされた本日。

担当もオーバーヒート気味です!

最後に参加者それぞれにつながって、散会となりました。

この支え合い事業は、地域住民同士だけでなく、地域で事業を行う方のご協力もあって、現在のような取組みに発展しています。この場をお借りして御礼申し上げます。

この住民支え合い活動にご協力いただける事業者や個人の皆さまがいらっしゃれば、ぜひお声かけください!地域の皆さんと一緒に活動していきましょう!

(その際は、地区の社会福祉協議会へお問い合わせください)

これから支え合いを推進していくため、みなさまご協力をよろしくお願いします!

看護学生
フィールドワーク

みどりし上映会



令和4年度

投稿数

75

いいね数

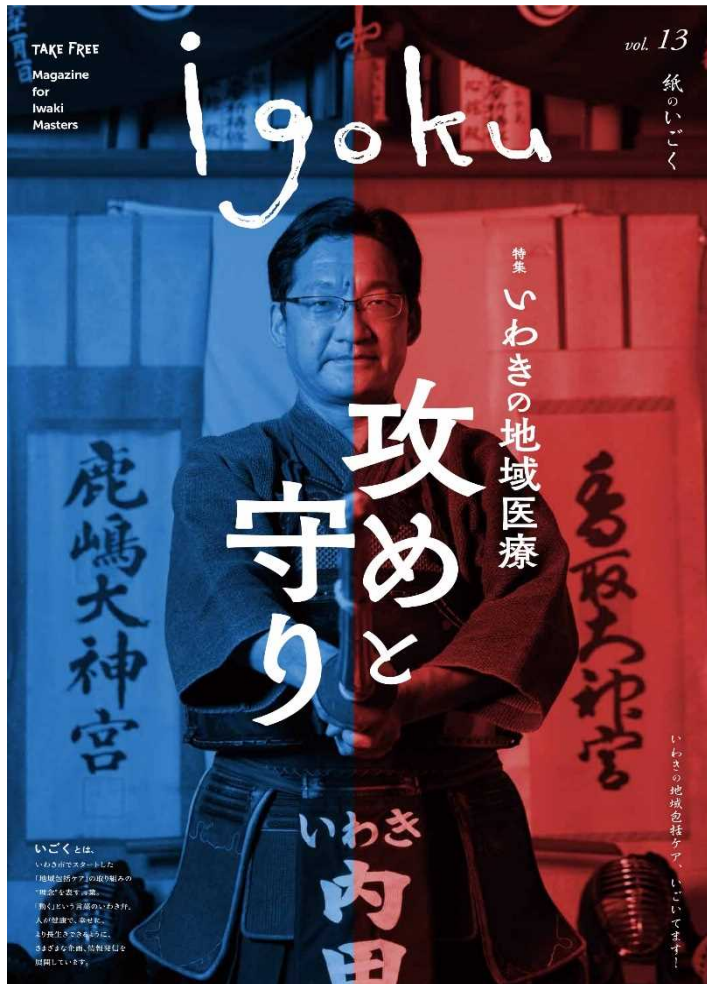
3,292

(R5.3.2時点)

認知症
パネル展示

つながる・いわき事業 igoku

「紙のいごくvol.13 いわきの地域医療 攻めと守り」を発行（令和4年12月31日）



★いわきの地域医療の3大課題を提起

医師不足

医師の高齢化

市民が不健康

★命を守る三次体制について解説

★攻めの4つ取組みを紹介

医療人材の育成

データ分析とヒアリング

いわきの医療価値の読み替え

いわきの医療のリアルを届ける

7,500部発行

・市の公共施設（公民館等）に設置

・医師会、病院協議会、薬剤師会、PT、OT、ST等職能団体へ配布

いわき市地域共生社会まちづくり事業

地域の高齢者、障がい者、子ども等の福祉の増進のための取組みのうち、地域課題に対応する今後の模範となる活動について、市が事業費の一部を補助し、広く市民に周知して活動を広げるもの。

【交付対象事業】

- ①介護予防及び福祉活動に関する活動、又は居場所づくりに関する活動
- ②ICTを利用した地域共生社会の実現に資する活動
- ③地域共生社会の実現に資する活動の普及啓発に関する活動
- ④その他高齢者、障がい者、子ども等の福祉の増進を目的とした取組みであり、地域共生社会の実現に資するものとして必要と認められる活動



【補助率】

ソフト事業・・・1/2以内 ハード事業・・・3/4以内

【交付上限額】

ソフト事業・・・1,000千円 ハード事業・・・5,000千円

令和4年度採択事業

■あすび・おむすび・えんむすび

～若者たちの自立と居場所づくり～

【活用例】出張型地域食堂

/おむすびづくりを通じた中間的就労

おむすび+



就労 支援

地域 食堂

居 場所



令和4年度 いわき市地域共生社会まちづくり事業補助金採択事業
中央台第2団地に
キッチンカーが
やってくる!

1月27日(金)
2月17日(金)
3月17日(金)
16:30~18:00

こんにちは、あすびです。
明白飛子ども自立の里(あすび)は、自立や就労に
悩む若者を支援しているNPO法人です。

丹精込めた、おむすびです。
そんなあすびの仲間たちがキッチンカーを連れて
皆さまのもとへおむすびとおかずをお届けします!

投げ銭制の、えんむすびです。
ちょっと覗いてみようかな? もちろん大歓迎!
スタッフ一同皆さまのお越しをお待ちしています。
お代は無料♪お気持ちは投げ銭でえんむすび♪

☎ 090-4313-4392
あすび・おむすび・えんむすび

SNSもみてね!

【キッチンカーで地域食堂を開催】



「事例集」を発行（令和5年3月）
（令和3・4年度採択の3事業を掲載）



【地域づくり関係者へ配布】

- ・発行部数1,000部
- ・事業概要/事業の構築方法・展望について掲載

＜令和5年度募集概要＞

【募集時期】 令和5年4月（予定）

【募集件数・補助額】

- ソフト事業1件 上限1,000千円/件
（補助率1/2）
- ハード事業2件 上限5,000千円/件
（補助率3/4）

【審査方法】

書類審査及び

プレゼンテーション審査により選定

【募集要項】

市HP掲載

【市HP 補助金詳細】



【募集広報】

3月下旬（予定）

自治会×社会福祉法人による地域における公益的事業

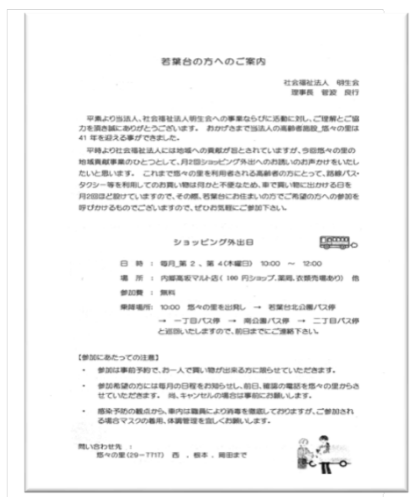
悠々の里による 高齢者外出(買い物)支援の取組み

概要

施設が車両、運転手を提供し、施設利用者の外出と一緒に地域住民を買い物先まで送迎する。

■対象者
地域にお住まいの高齢者

■日時
毎月第2・4木曜
10時～12時



取組みの経緯

- これまでも、地域貢献事業として地域の高齢者の交流サロン(書道・コーラス・ヨガ・華道)等や子ども食堂を開催。
- 坂が多く、買い物やごみ出しが大変になってきた。との地域の声の中から”**買い物**”支援を企画。

～地域の声～

坂が多くて、**買い物**や**ゴミ出し**が大変。

～孤食～
一人きりで食事をとることが多い。



品物を手に
取って、見て、
選べるのが
何よりの喜び。



重い荷物
も安心して
購入。

担当者の声

介護保険だけで利用者のQOLは満たせない。
介護が必要な状態になっても、**生きがい**や
楽しみを支えたい。



今後の展開

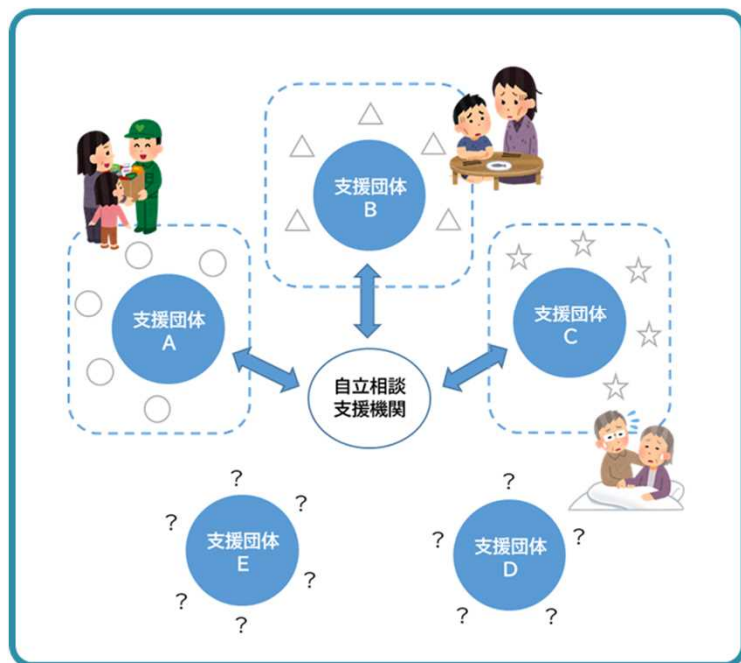
自治会と連携し、団地の居住者に外出支援の取組みについて周知を図る。

▶▶ 団地内でのチラシの回覧や自治会主催行事の際にお知らせをする。

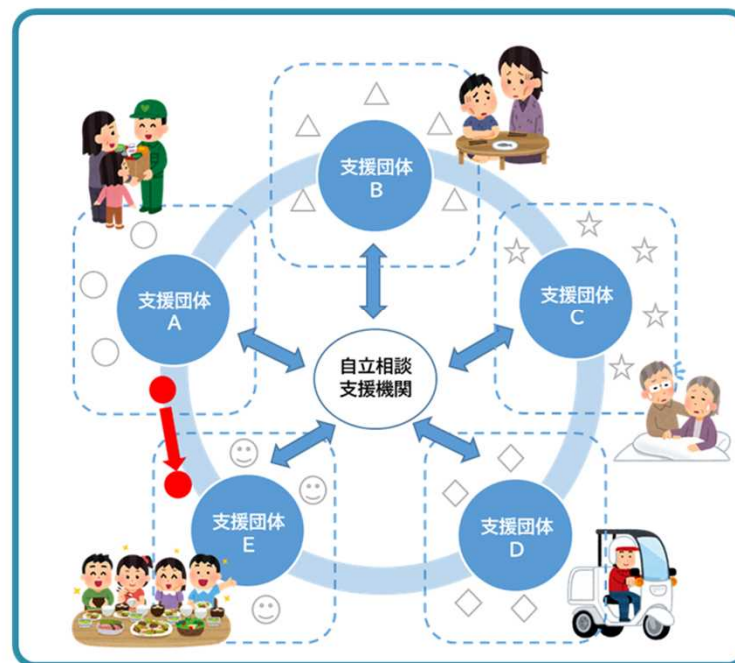
いわき市生活困窮者支援官民連携プラットフォーム

コロナ禍で困窮者の支援ニーズの増加・多様化が顕著となり、物価高騰も重なったことで苦しい生活を強いられる状況が続いている。そこで、セーフティネットの強化を目的にフードバンクやこども食堂、居場所づくりなどに取り組む地域の支援団体と行政等が参画する「プラットフォーム」を設置した。これまで各々に活動していた団体の「顔の見えるヨコのつながり」を作り、情報の共有や互いの活動を補完できるような体制を構築し、連携を図りながら困窮者支援を進めるもの。

【プラットフォーム設置前】



【プラットフォーム設置後】



関係団体のヨコのつながりは、困窮者にとってもメリットが大きい。
「頼れる場所が増える」「選択肢が増える」→安心や豊かさにつながる

いわき市生活困窮者支援官民連携プラットフォーム

<プラットフォームの構成>

- ・ 支援団体（困窮者支援に取り組む団体） 16団体
 - 内訳：フードバンク 4団体
 - 子ども食堂、コミュニティ食堂 6団体
 - 居場所づくり 2団体
 - その他（住まい、相談支援など） 4団体
- ・ 協力団体（支援団体に食料提供等で協力する団体） 2団体
- ・ 関係機関 いわき市生活・就労支援センター
地域福祉ネットワークいわき
- ・ 行政 保健福祉部、こどもみらい部
地区保健福祉センターなど



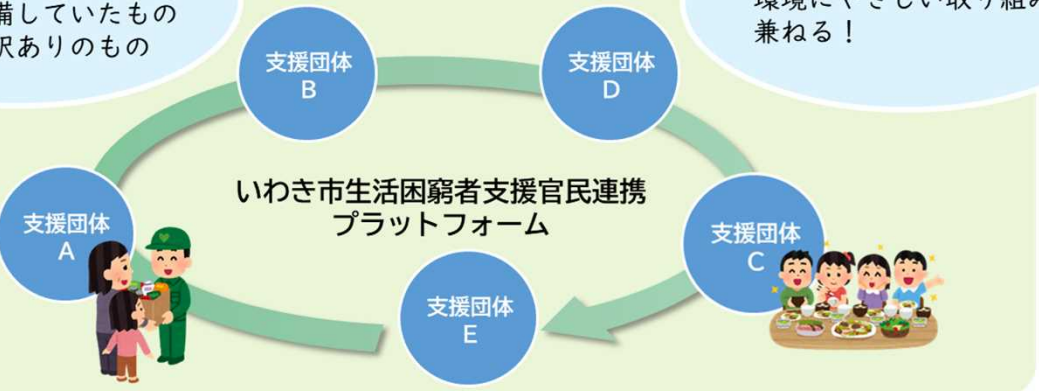
【R4.10.5開催 第1回連絡会議の様子】

【プラットフォームの取組みの一例】

協力団体が通常廃棄してしまう食料をプラットフォームの支援団体で分け合える仕組みづくりを行っています。



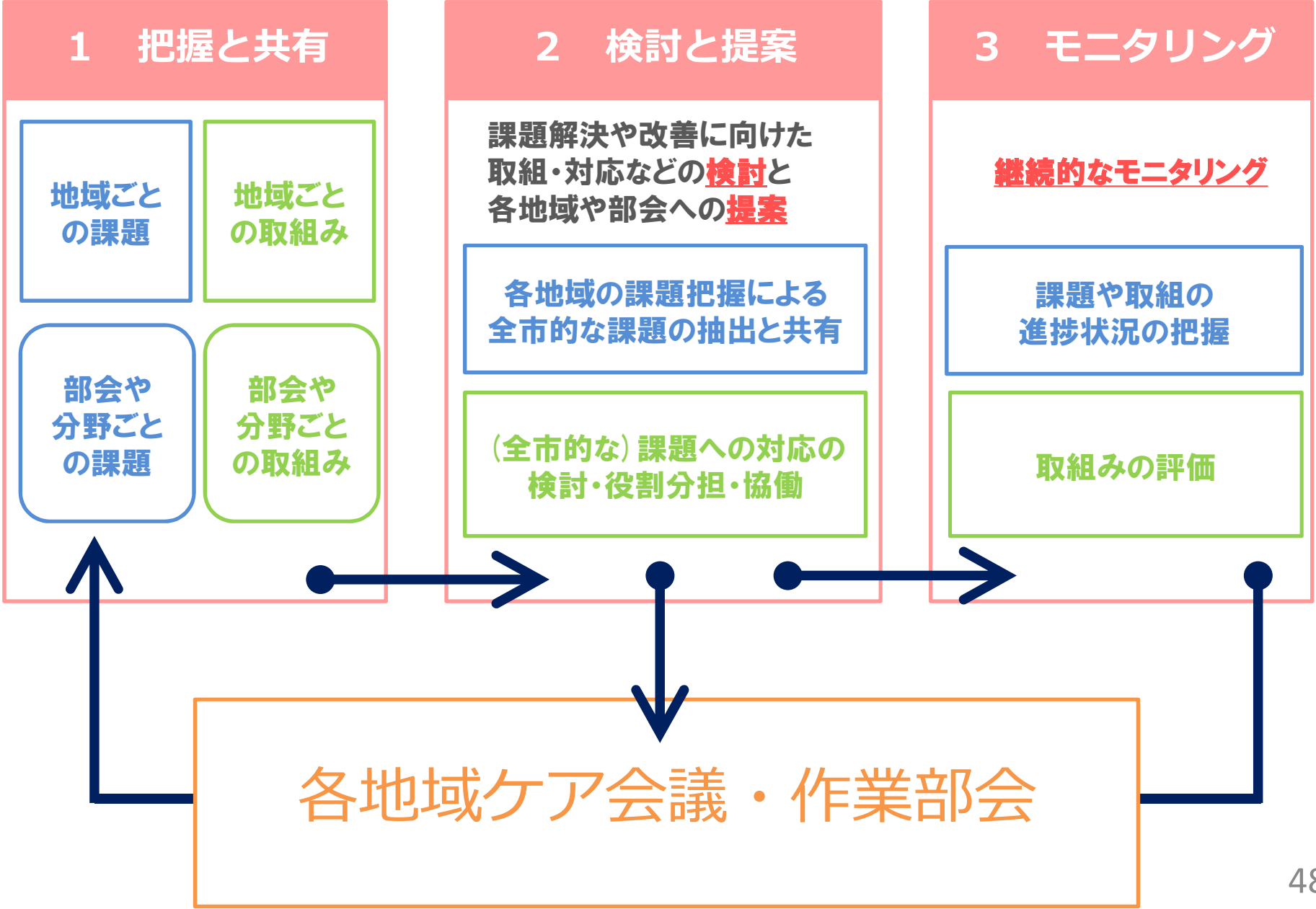
- ・ 販売に出せないもの（規格外、期限間近など）
- ・ 予備で準備していたもの
- ・ その他、訳ありのもの



フードロスをなくして環境にやさしい取り組みも兼ねる！

今後、推進会議において優先的に取り上げるべき課題について

分野	現状	課題
介護予防・生活支援	<ul style="list-style-type: none">・体操指導士の不足・つどいの場や支え合い活動のサポーターが増えない、見つからない・活動の参加者が増えない	<ul style="list-style-type: none">・担い手の育成・確保・若い世代へのはたらきかけ・対象者(属性)の拡大
看取り・終活	<ul style="list-style-type: none">・本人の意思を家族で共有できていない・在宅医療に関する意識・意向に関する実態が掴めていない	<ul style="list-style-type: none">・終末期の心構え・ACPの推進



ありがとうございました。